

環境目標Ⅳ「環境の保全・創造に寄与する人を育てます」

基本方針 Ⅳ-1 環境意識の啓発

市民一人一人による環境美化活動、市による環境の保全・創造に関する取組や環境に関する最新の情報の提供と普及を図るための取組について説明します。

施策① 環境美化の推進

1 環境美化の推進

(1) 校区花いっぱい事業

地域内の美化や緑化の推進、住民同士の交流を図るため27の校区連絡会が校区花いっぱい事業に取り組みました。

- ・植栽日：5月24日（ペゴニア）

(2) 「フラワーキーパー」事業

美しいまちづくりを推進するため、広く市民からボランティアを募集し、フラワーキーパーとして登録し、道路などに季節に応じた花を植栽しました。

- ・植栽場所：コミュニティひろば、星川通線の一部、市役所通線の一部、籠原小学校西門前、
- ・植栽日：6月2日、11月17日



(3) ゴミゼロ運動

環境に対する意識の向上、環境美化の推進、地域コミュニティの強化のため、熊谷市コミュニティづくり市民協議会によるゴミゼロ運動が展開され、多くの市民やグループ、企業等の参加が得られました。

■実施日及び参加団体

第77回（5月19日～6月24日）、267団体（29,807人）

第78回（10月13日～11月18日）、245団体（23,972人）

(4) 河川の清掃活動

■第21回荒川の恵みと熊谷を考える集い

- ・主催等：NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会が中心となり、多くの市民活動団体や関係団体が参加し、今回は特にペットボトルに注目して荒川河川敷で清掃を行いました。
- ・実施日：11月25日
- ・参加者数：857人（うち子ども182人） ・参加団体：28団体
- ・実績：可燃ごみ330kg（うちペットボトル16.7kg）、不燃ごみ175kg、粗大ごみ280kg、合計785kg

■荒川河川敷の清掃

昭和47年から中央漁業協同組合熊谷支部の事業として組合員が行っており、昭和56年から児童・保護者協力の上、年2回実施しています。清掃区域の一部は熊谷荒川緑地（国土交通省から占用許可を受けている緑地）にあたっています。

第2節 推進状況 環境目標Ⅳ「地球環境の保全・創造に寄与する人をつくります」

- ・主催：埼玉中央漁業協同組合
- ・協力：市、市教育委員会、荒川上流河川事務所
- ・実施日： 6月2日（約140人 熊谷南小学校、佐谷田小学校）
12月8日（約180人 桜木小学校、久下小学校）

■利根川の河川清掃

- ・実施月：5月 ・参加者数：463人 ・参加団体：利根川の沿線の9自治会

■別府沼公園の清掃活動

自然が残され、希少な水生生物が繁殖している別府沼公園の清掃活動が地元の自治会員等により行われました。

- ・実施日：12月2日
- ・参加人数：360人
- ・内容：別府沼の水を干し、地元自治会等による沼地・公園のごみ拾いが行われました。



2 環境美化のモラル意識の啓発

(1) 自転車等の放置防止対策

自転車等の放置防止対策として、立哨指導を年間210回実施するとともに、熊谷駅周辺の放置整理区域内に放置された自転車等を年間39回（444台）撤去しました。

また、平日（晴天日）の午後6時を基準とした熊谷駅周辺放置整理区内の自転車等の放置台数は213台で、前年度に比べ約11%減少しました。

(2) 犬のふんの適正な処理対策

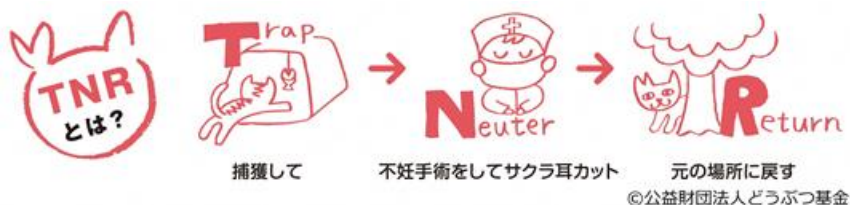
啓発用プレートを申請81件に対し347枚配布したほか、市報等で「愛犬を散歩する時のルール」を周知するなど、飼いのマナー向上のための啓発に取り組むとともに、注意を促しました。



(3) 「飼い主のいない猫」対策事業

公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業（行政枠）」を利用し、さくらねこ無料不妊手術チケットを市民及びボランティア団体に交付しました。併せて、捕獲器の貸出も行いました。

- ・さくらねこ無料不妊手術チケット申請件数 111件
- ・さくらねこ無料不妊手術チケット利用枚数 322枚
- ・捕獲器貸出件数 47件（54台）



施策② 環境情報の発信

1 環境情報の提供による意識の啓発

(1) 環境情報の発信

市報やホームページ、SNS、熊谷駅構内のデジタルサイネージ、地域の情報・サービスを提供する地域ポータルサイト等の各種メディアを活用し、市民が必要とする環境情報を広く周知しました。

第3章 総合的推進

第2節 推進状況 環境目標Ⅳ「地球環境の保全・創造に寄与する人をつくります」

■市報による情報発信

毎月1日に市の様々な情報をお知らせするために、市報を発行しており、6月の「環境月間」や12月の「ストップ温暖化」の特集のほか、「エコライフフェア」「リサイクルフェア」などの環境啓発イベント情報、「水質測定の結果」「みどりのカーテン作成」「節電」「使用済みインクカートリッジの回収等」など、市民生活に関係する環境関連情報を多数掲載しました。

■ホームページによる情報発信

「あっぱれ！熊谷流」事業を詳しく紹介するため、特別サイトを公開し、環境に関する情報発信の充実を図りました。また、「キッズページ」内に「環境のことを考えよう」というページを設け、子どもたちに向けて情報発信をしています。

また、地域の周辺情報を積極的に広報するために、地域ポータルサイトとして、ホームページ「あついで.com」の運営管理を行いました。

■ケーブルテレビ番組放送事業

ケーブルテレビ：COM熊谷・深谷の番組「くまがやぐらしの情報局」で、「ペットボトルエコステーション」「暑さ対策事業」「ごみの出し方」「野生生物」など環境に関する情報を発信しました。

■FM-NACK5番組放送事業

ラジオ番組を通じて、熊谷市の暑さ対策等を情報発信しました。

FM-NACK5「GOGOMONZ」「おいでよ！熊谷スペシャル」の放送

内容：デジタルサイネージ、階段アート、冷却ミスト等、市の暑さ対策事業

■メール配信サービス「メルくま」及びSNSによる情報発信

環境に関する情報を携帯電話やパソコンにメール配信しました。また、市公式フェイスブックやツイッターでも環境に関する情報を発信しました。

■デジタルサイネージによる情報発信

環境に関する情報を熊谷駅改札前のデジタルサイネージに表示しました。

■環境に関する年次報告書の作成

環境基本計画に基づく年次報告書として「環境白書」を作成して、市の環境の現状に関する情報の提供を、継続して行いました。

施策③ 環境に配慮した行動の普及啓発

1 身近な自然環境と触れ合う機会の確保

(1) 自然観察会・自然体験の実施

■里山ウォーキング

①秋の部

・実施日：11月10日 ・参加人数：40人

・内容：江南地区の歴史や文化に触れながら秋の里山を巡りました。

②春の部

・実施日：3月30日 ・参加人数：102人

・内容：江南小江川地区1000本桜の景色を眺めながら春の里山を巡りました。



秋の里山ウォーキング



春の里山ウォーキング

(2) 水辺に触れ合える機会の創造**■夏休み水辺観察会**

- ・実施日：7月30日
- ・参加人数：11人
- ・内容：元荒川で水質調査や水中生物等の観察を行い、身近な自然環境に関する理解を深めました。

**■河川に関する情報発信**

国・県が主催する「川の愛護活動」や講演会などのポスターやチラシの配布により、河川に親しむためのPRをしています。

2 資源を大切にする行動の啓発**(1) くまがやエコライフフェア**

- ・目的：市民・事業者・市が環境保全の重要性を認識することを目的とし、イベントを通じて意識啓発を図る。
- ・テーマ：環境を「守る」「楽しむ」「進化させる」。ヒントが満載！エコライフフェア
- ・主催：くまがやエコライフフェア実行委員会
- ・開催日：5月26日、27日
- ・会場：八木橋百貨店（8階カトリアホール内）、熊谷市コミュニティひろば、荒川大麻生公園
- ・参加・協賛団体数：64団体
- ・来場者数：延べ約5,720人
- ・主なイベント：

【八木橋会場】

環境ポスター作品展示、幼稚園児による作品展示（まことこども園）、環境学習紹介（江南北学校、江南南小学校）、研究発表『太陽エネルギーをキャッチしよう』（自然科学クラブ）、環境保全活動紹介（吉岡グランドワーク、ほたるを保護する会、小江川地区1000本桜事業）、環境保全に関する講演（埼玉環境カウンセラー協会、熊谷環境衛生協議会）パソコンの解体体験、エコ体験教室など

【コミュニティひろば会場】

エコカーの展示・試乗、合併処理浄化槽の紹介、リサイクルフリーマーケット、ゴーヤ苗の配布及び壁面緑化の奨励、省エネ機材の展示、企業や市民団体等の環境活動の展示など。

【荒川大麻生公園会場】

希少な河原の自然が残された荒川大麻生公園内での自然学習及び荒川周辺の清掃活動。



八木橋会場



コミュニティひろば会場



荒川大麻生公園会場

第3章 総合的推進

第2節 推進状況 環境目標Ⅳ「地球環境の保全・創造に寄与する人をつくります」

(2) くまがや環境賞

【くまがや環境賞とは】

環境の保全と創造にかかる自主的な活動に特に顕著な功績があり、広く市民の模範となる者を表彰することにより、環境保全意識の普及及び高揚を図ることを目的とします。

5月26日開催のくまがやエコライフフェアの中で、表彰式を開催しました。



■平成30年度受賞者

・長島 秋保 様

熊谷市ダイオキシン類排出抑制条例第10条の規定に定められた、大気汚染等を早期に発見し迅速に対応するための、きれいな空気巡視員として、平成18年9月委嘱以降、11年8ヶ月にわたり担当地域の巡視活動等に精励されています。

・熊谷市立大幡中学校

自然に恵まれた環境を生かした教育を実施し、平成29年度に埼玉県学校緑化コンクール優良校を受賞しました。

(3) 「環境美化推進員」制度

環境美化推進員（467人）について、継続して委嘱を行い、ごみの適正排出の指導及びごみの減量化、資源化の推進などの普及啓発を図りました。

(4) 水道事業の啓発

水道事業に対する理解と協力を得るため、年2回「水道だより」を発行しました。また、水の大切さを知り、意識を高めてもらうため、小学生などを対象とした施設見学会の開催（15回、延べ参加者数987人）や、水道週間（6月1日から7日まで）に合わせた東部浄水場での懸垂幕掲出のほか、ペットボトル「くまがやの水」を作製し、うちわ祭や会議等で配布するなどの広報活動を行いました。

★ 環境指標と進捗状況

◎：2027年度の目標値を達成している。 ○：2022年度の間目標値を達成している。 △：計画策定時の現状値より改善している。
×：計画策定時の現状値より悪化している。 -：現状値がない等により評価をしていない。

No.	環境指標	単位	計画策定時 現状値 (H28年度)	計画策定時 中間 目標値 (R4年度)	目指す 方向 (R9年度)	現状値		評価
						H29	H30	
401	フラワーキーパー事業参加者数	人	295	350	350	343	344	△
402	ゴミゼロ運動参加者数	人	60,037	60,500	61,000	47,714	53,779	×
403	河川清掃活動参加者数	人	2,228	2,500	3,000	2,766	2,000	×
404	くまがやエコライフフェア参加・協賛団体数	団体	54	65	70	62	64	△

■進捗状況

基本方針Ⅳ - 1「環境意識の啓発」では、「フラワーキーパー事業参加者数」及び「くまがやエコライフフェア参加・協賛団体数」については改善していますが、「ゴミゼロ運動参加者数」及び「河川清掃活動参加者数」については悪化しています。それぞれの活動が活発になるよう広く呼びかけを行います。

基本方針 IV-2 環境教育・環境学習の推進

市民一人一人が環境に配慮した行動を実践できることを目指した、環境教育・環境学習の推進に関する取組について説明します。

施策① 環境教育の推進

1 子供たちの環境教育の推進

(1) 児童環境教育推進事業「キッズISOプログラム入門編」の実施

家庭で子供たちが中心となって環境にやさしい生活に取り組む環境教育プログラム「キッズISOプログラム入門編」を市内の全ての小学校6年生を対象に実施しました。

これは、PDCAサイクルに基づき、子供が主体となり、初めの1週間に電気・ガス・水道・ごみの現状をチェックし、どうすればそれらが減らせるのか計画を立て、次の1週間で取り組み、結果をチェックし、感想とこれからどうすれば良いのかを考えるプログラムです。

日常生活の中で、子供たちのマネージメント能力を育成するとともに、家庭での温暖化対策の推進につながります。

- ・取組人数：1,409人
- ・効果：約4,033tの二酸化炭素の発生抑制

(2) 子供たちの環境保全の意識啓発

■荒川流域一斉水質調査

- ・主催：NPO法人熊谷の環境を考える連絡協議会
- ・実施日：6月3日
- ・参加人数：29人
- ・内容：荒川水系（5河川）及び福川の水質調査をNPOや立正大学生を中心に実施しました。結果は、NPO法人荒川流域ネットワークに報告し、マップに表記するとともに広報を行いました。

■河川環境学習会

- ・主催：NPO法人熊谷の環境を考える連絡協議会
- ・実施日：6月3日、11月4日
- ・参加人数：70人（子ども含む）、30人（子ども含む）
- ・内容：熊谷市子どもセンターの「ウイークエンドサイエンス」と連携し、和田吉野川で地元自治会等の協力のもと、生き物調べや周辺の植物観察などを行いました。

■子ども自然科学教室

子ども自然科学教室を開催し、環境や自然に対する子どもたちの学習を推進しました。

- ・開催回数：11回
- ・参加人数：343人

(3) ごみの散乱防止と3Rを進めるためのポスターコンクール

環境省が募集する「3R促進ポスターコンクール」に市内小学校に応募を呼びかけ、環境について考えるきっかけを作りました。

第3章 総合的推進

第2節 推進状況 環境目標Ⅳ「地球環境の保全・創造に寄与する人をつくります」

(4) 環境ポスター作品展

身近な環境問題から地球規模の環境問題まで一人一人が環境保全のためにできることを考え、行動に移す契機となることを目的として実施しました。

また、エコライフフェアにおいて入選作品の展示と表彰式を実施しました。

- ・応募点数：3,251点（市内の小学5、6年生）
- ・展示数：26点（最優秀賞1点、優秀賞5点、奨励賞20点 ※入選作品は左記含め100点）
- ・展示期間：5月26日から27日
- ・展示場所：八木橋百貨店8階カトリアホール



(5) 「こどもエコクラブ」の活動支援

「こどもエコクラブ」は、子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援することを目的としており、市内では全29小学校（環境委員会など）と自然科学クラブの30団体（平成30年3月末現在）が登録しています。なお、30団体合計のメンバー登録数は4,255人と埼玉県内で最も多く、市町村別では全国でも3位と環境学習に対する関心の深さがみられます。

各クラブは、こどもエコクラブ全国事務局から提供される情報を環境学習に活用し、自然科学クラブにおいては、くまがやエコライフフェアにおいて「太陽エネルギーをキャッチしよう」をテーマに研究発表及び展示をしました。今後も「こどもエコクラブ」の活動を支援し、環境教育の推進を図ります。

(6) 農業体験活動を通しての環境意識の啓発

熊谷市みどりの学校ファーム推進協議会（構成：市、教育委員会、農業委員会、校長会、教頭会、JA くまがや）が主体となり、市内39の小中学校で「みどりの学校ファーム」に取り組み、農業体験活動を通し、自然への感謝、環境や食物に対する関心や理解を深め、実際に栽培し、喜びを体験しました。

(7) 食を通しての環境意識の啓発

学校給食センターでは、献立に地場産農産物を積極的に取り入れるとともに、「ふるさと給食の日」を毎月設定し、地場産農産物を使った郷土料理を提供するなど食による環境意識の向上を図りました。また、児童・保護者の給食センター施設の見学を受け入れることで食及び環境への関心を深めました。

(8) リサイクル工作教室の開催

廃品を利用した工作を行うことで資源の再利用とごみ減量の意識を育てるために、市内3箇所の児童クラブを訪問し、児童を対象としたリサイクル工作教室を開催しました。

- ・会場：妻沼南児童クラブ、第4石原児童クラブ、第2石原児童クラブ ・参加者：児童87人

(9) リサイクル工場見学会の実施

リサイクルへの関心を高めるために、子どもたちを対象とした工場見学会を実施しました。

- ・見学先：中央化学(株)騎西工場 ・参加者：18人

(10) 親子エコ・クッキング教室の開催

食材を無駄なく調理して家庭から排出される生ごみを減量する方法を参加者を通じて家庭や学校、地域へ普及させるために、小学生と保護者を対象とした親子エコ・クッキング教室を開催しました。

- ・会場：東京ガス料理教室 ・参加者：25世帯 61人（全4回合計）

(11) 学校ビオトープ

学校ビオトープづくりは、子供たちに身近な自然とのふれあいや、環境教育、環境学習を進める上で非常に効果があります。校内に水辺などをつくることにより、周辺の自然とのネットワークづくりに寄与しています。子供たちが身近な自然との関わりをもつことができるよう、維持管理は児童の手で実施しました。

■ビオトープ一覧表

学校名	構成	植生等	活用状況	特徴
熊谷西小学校	池	メダカ・トンボ・ガマ等	理科や生活科、総合的な学習	地域の協力(おやじ倶楽部)
佐谷田小学校	地下水活用による川、ムサシミヨ増殖池	ムサシミヨ・フナ・メダカ・ヨシ・ガマ等	理科や生活科、総合的な学習など	「ムサシミヨをまもる会」による指導
久下小学校	地下水活用による川、ムサシミヨ増殖池	ムサシミヨ・トンボ・アメンボ・タニシ・ヨシ・ガマ等	理科や生活科、総合的な学習など	地域住民の協力による保全活動 「ムサシミヨをまもる会」による指導
熊谷南小学校	池	ガマなどの水性植物 メダカ、ヤゴ等	理科の学習など	地域及び保護者の保全協力
中条小学校	池	トンボ・ハス等	理科や生活科、クラブ活動など	昔あった植物や生物を取り入れること
吉岡小学校	池	メダカ・コオロギ・アメンボ・トンボ・ガマ・ヒガンバナ等	理科、クラブ活動など	
別府小学校	護岸された池に土を入れビオトープに転換	トンボ・カエル・ヒメシロアサザ・ミズアオイ等	総合的な学習の時間など	「別府沼を考える会」による指導
三尻小学校	池	トンボ・カエル・ミクリ・ガマ等	理科や生活科など	地域の協力(おやじ倶楽部)
妻沼小学校	池	水生昆虫、メダカ等	メダカの飼育	天然のメダカ(黒メダカ)の繁殖池
熊谷東中学校	地下水活用による川、ムサシミヨ増殖池	ムサシミヨ・コイ・トンボ・水草等	委員会活動・クラブ活動など	「ムサシミヨをまもる会」による指導
大麻生中学校	池	メダカ、フナ等	理科の時間など	

(12) 学校等の取組事例

ア みどりのカーテンの設置

全ての小・中学校及び公立幼稚園にみどりのカーテンを設置しました。

カーテンを設置したことにより教室内の気温が下がるとともに生徒たちの省エネに対する意識、温暖化防止への意識が高まりました。

イ ホタル鑑賞会への協力

久下小学校、江南北小学校、江南南小学校では、各地域のホタル鑑賞会に向けて、地域と連携しホタルについての学習会を実施しています。

ウ 環境教育主任会

各学校の環境教育主任が集まり、市内全ての小中学校で取り組んでいる「学校ファーム」について情報交換を行い、収穫する喜びを体験すること、地域の方や専門家と協力すること、授業中で身近な

第3章 総合的推進

第2節 推進状況 環境目標Ⅳ「地球環境の保全・創造に寄与する人をつくります」

環境から自分にできることを考えることの必要性など、様々な取組の充実を話し合いました。

エ ユネスコスクール

佐谷田小学校、久下小学校では、世界中の学校との交流を通じて、情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指す取組であるユネスコスクールに登録しています。

なお、佐谷田小学校ではムサシトミヨの保護及び繁殖活動、地球温暖化、外国の文化・世界遺産、地域の文化財や伝統文化を学ぶ活動を行いました。

オ ムサシトミヨの保護及び繁殖活動

久下小学校、佐谷田小学校、熊谷東中学校では、「熊谷市ムサシトミヨをまもる会」の指導のもと、ムサシトミヨの保護及び繁殖活動に取り組んでいます。毎年10月頃繁殖数調査をし、2月頃には「熊谷市ムサシトミヨをまもる会」主催の「繁殖報告会」において、繁殖の成果を発表しています。

施策② 環境学習の推進

1 生涯学習活動における環境学習の推進

(1) 環境教育講座及び市政宅配講座

市職員等が講師となり、指定した場所へ出向き、市政について講演する「環境教育講座・環境施設見学会」及び「市政宅配講座」により、最新の環境情報を提供しました。

市政宅配講座における環境分野の講座 平成30年度実施回数：8回

市政宅配講座における環境分野の講座数（外部団体実施含む）：24講座

(2) 消費生活講座

公民館講座等においてエコ生活等をテーマにした講座を10回開催して、延べ309人の方が参加し、環境問題への関心と理解を深めました。

テーマ：省エネ、居住空間の改善

(3) 生涯学習講座

直実市民大学や各公民館の生涯学習講座において、環境学習の取組が行われました。

■直実市民大学共通学習

- ・テーマ：「熊谷の水環境と生態系」（参加人数：92人）
- 「埼玉の気象について」（参加人数：90人）
- 「広瀬野鳥の森の動植物」（参加人数：87人）

■中央公民館開設学級・講座での環境学習

- ・講座名：「熊谷の自然と環境」（参加人数：42人）

■地域公民館実施の環境学習

実施公民館	講座名	参加人数
熊谷東公民館	家庭で出来るゴミの減量とリサイクル	17人
籠原公民館	家庭で出来るゴミの減量とリサイクル	65人
桜木公民館	みどりのカーテンの効果と作り方	20人
成田公民館	緑のカーテンの作り方	17人
大麻生公民館	地域温暖化とみどりのカーテン	39人
星宮公民館	グリーンカーテン作り	7人
〃	エコドライブ講習会	18人

第2節 推進状況 環境目標Ⅳ「地球環境の保全・創造に寄与する人をつくります」

★ 環境指標と進捗状況

◎：2027年度の目標値を達成している。 ○：2022年度の間目標値を達成している。 △：計画策定時の現状値より改善している。
 ×：計画策定時の現状値より悪化している。 -：現状値がない等により評価をしていない。

No.	環境指標	単位	計画策定時 現状値 (H28年度)	計画策定時 中間 目標値 (R4年度)	目指す 方向 (R9年度)	現状値		評価
						H29	H30	
405	学校における児童環境教育に取り組んだ児童数※キッズISOプログラム取組児童数	人 (累計)	22,645	32,000	40,000	24,074	25,483	△
406	こどもエコクラブに登録した団体数	団体	30	35	40	30	30	△
407	環境講座の受講者数	人	599	800	1,000	346	388	×
408	地域大学と連携した環境公開講座数	回	2	2	3	0	0	×

■進捗状況

基本方針Ⅳ - 2「環境教育・環境学習の推進」では、「環境講座の受講者数」及び「地域大学と連携した環境公開講座数」について悪化しています。環境教育講座や消費生活講座などに多くの市民が参加し、環境や省エネに対する意識の高さがうかがえますが、目標値には達成しておらず、講座の充実やPRの必要性があります。

基本方針 Ⅳ-3 協働による環境活動の推進

市民、事業者、環境団体、市等が、お互いの特性を活かし役割を分担し行動しながら、地域の環境資源を保全・創造し、将来の世代に引き継いでいくための取組について説明します。

施策① 環境活動団体や地域での環境活動の支援

1 地域の環境活動の支援

(1) 彩の国ロードサポート制度

活動団体と県と市の3者がパートナーとなり、快適で美しい道路環境づくりを進める取組で、3者で確認書を取り交わし、活動団体が清掃美化活動を行い、県と市が活動を支援します。

40団体（平成31年3月31日現在）が活動を行っており、県はボランティア保険の加入や表示板の設置を、市は回収したごみの処理の支援などを行っています。

(2) 自治会等が回収したごみの無料回収

自治会等が「ゴミゼロ運動」及び「地域活動」により回収したごみの無料回収を実施しました。

実績：ゴミゼロ運動 90件 地域活動 79件

施策② 環境活動のパートナーシップの育成

1 交流の場の創出

(1) 市民活動支援センター

市民活動支援センターは、環境関連団体を含む様々な分野の市民活動団体、非営利で公益的な活動をしている方たちやこれから活動しようと考えている方たちのための拠点施設となっています。

- ・管理者：特定NPO法人 NPOくまがや（指定管理）
- ・登録団体数（平成31年3月末現在）：244団体

(2) 「SATOYAMA&SATOUMI movement with ニャオざねまつり in 熊谷」の開催

市民活動団体の活動をPRする場として、SATOYAMA&SATOUMI movement 実行委員会と同時開催を行い、市及び市民活動団体の良さをアピールしました。

- ・主催：SATOYAMA&SATOUMI movement 実行委員会
- ・共催：埼玉県、熊谷市
- ・特別協力：ニャオざねまつり実行委員会
- ・実施日：10月20、21日
- ・場所：熊谷スポーツ文化公園
- ・来場者数：約23,000人 ・参加団体：32団体



2 協働による取組の推進

(1) 市民協働「熊谷の力」事業

市民活動団体と市が協働で事業を実施して、新たな発想や手法によって、まち（地域）の課題を解決していきます。市民協働「熊谷の力」事業は、

①市が考える地域課題（市が考えるテーマに対して事業提案を行うもの）

②市民が考える地域課題（市民活動団体が市へ自由なテーマで事業提案を行うもの）

の2通りの方法で協働事業の候補を募集します。

平成30年度は、3事業を実施しました。

第2節 推進状況 環境目標Ⅳ「地球環境の保全・創造に寄与する人をつくります」

また、平成31年度実施事業の審査を行い、4事業が採択されました。環境分野では、ホテル保護啓発看板設置事業（特定非営利活動法人熊谷市ほたるを保護する会）、ごみ分別PR動画作成事業（劇団DOUBTーダウト）、打ち水大作戦サポーター養成事業（特定非営利活動法人エコネットくまがや）を採択しました。

（2）熊谷市民公益活動促進事業はじめの一步助成金

「地域社会に貢献する活動を始めたい」「今、行っている公益活動を広げたい」団体を支援する制度です。より多くの市民活動が市内で活発に展開され、熊谷市を魅力と活力ある都市としていくため、市内における市民活動団体の設立と新たな事業の実施に対して助成金を交付します。

助成メニューは、次の2通りです。

①スタート助成金

- ・ NPO・ボランティア団体を立ち上げたい。
- ・ 立ち上げた団体で事業を始めたい。

②チャレンジ助成金

- ・ すでに活動している団体が新しい事業を始めたい。
- ・ すでに行っている事業の拡大をしたい。

平成30年度は、提案のあった4団体の事業に対し助成金が交付されました。

（3）民間資金による市民環境活動の支援（熊谷環境基金）

自然環境保護や資源循環型経済社会システムの定着など、広く環境問題に自主的に取り組む市民活動を支援し、地球環境の保全に寄与するため、太平洋セメント株が出捐（シュツイン）し設立された、公益信託「熊谷環境基金」の15回目の助成が行われました。

この公益信託は熊谷市民や、主に熊谷市内での自然環境保護や資源循環型経済社会システムの定着への取組を行う団体に対する助成です。今後も基金が有効に活用され、自主的な環境保全活動の環が広がることが期待されます。

■スマートハウス建築または購入に対する助成

- ・ 助成対象：スマートハウスを建築または購入した個人に対し、25万円/件を上限に助成
- ・ 助成件数：12件 ・ 助成金額：3,000,000円

■自然環境保護団体などに対する助成

- ・ 助成対象：地球環境の保全を目的として、自然環境保護や資源循環型経済社会システムの定着への取組などを行う団体に対し、一般事業は20万円、環境整備事業は100万円を上限に助成
- ・ 一般事業助成団体数：13団体 ・ 一般事業助成金額：2,266,000円

■進捗状況

基本方針Ⅳ-3「協働による環境活動の推進」では、市民協働「熊谷の力」事業や熊谷市民公益活動促進事業（はじめの一步助成金）により、これまで環境に関する取組が実施されてきました。これらの事業は、市民との協働による環境活動を推進する上で大変有効であり、今後、関係団体に利用を促すとともに、そこで行われた活動を継続していくことが重要になります。

第3章 総合的推進

第2節 推進状況 環境目標Ⅳ「地球環境の保全・創造に寄与する人をつくります」

熊谷市環境審議会委員名簿(平成31年3月現在)

種類		委員名	職名等
1号	学識経験を有する者	たかむら ひろき 高村 弘毅	立正大学名誉教授
		はら みどり 原 美登里	立正大学地球環境科学部 准教授
		あらい ちあき 新井 千明	公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 熊谷支部長
2号	市議会議員	まつもと とみお 松本 富男	熊谷市議会議長
		こじま まさやす 小島 正泰	熊谷市議会環境産業常任委員会 委員長
3号	市民及び市内の関係団体代表者	えはら ひとし 江原 仁	公募委員
		もりた ひろじ 森田 廣次	熊谷市自治会連合会 副会長
		はやし ふみあき 林 文明	一般社団法人 熊谷市医師会 理事
		ごとう もとひこ 後藤 素彦	熊谷商工会議所常議員
		あおき ときよ 青木 登喜代	くまがや農協女性部連絡協議会 会長
		たかはし たかこ 高橋 孝子	NPO法人 熊谷の環境を考える連絡協議会 会員
		たけだ たかこ 武田 隆子	くまがや共同参画を進める会 副会長
4号	関係行政機関の職員	さいとう りゅうじ 斉藤 龍司	埼玉県北部環境管理事務所 所長
		わたぬき けんじ 綿貫 健司	熊谷警察署生活安全課 課長
5号	その他市長が必要と認める者	—	